

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0592200091		
法人名	株式会社 親孝		
事業所名	グループホーム親孝の里		
所在地	秋田県山本郡八峰町八森字中浜1番地13		
自己評価作成日	平成29年1月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 秋田県社会福祉士会		
所在地	秋田市旭北栄町1番5号		
訪問調査日	平成29年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

海や山などの自然に囲まれた住み慣れた土地で暮らすことができる。 看取りのできる体制を整え、入居中に終末期となった方の看取りも行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・ホームに併設しているレストランは誰もが自由に利用することができ、地域に解放されている。また、利用者の食事の準備も行っているため、業務の効率化が高まり、介護職員は利用者の介護に専念できている。 ・医療機関との密な連携により重度化した利用者の看取りを行っており、家族の要望に応えている。 ・かつて津波を経験した地域であることから、防災意識が高く、地域住民を交えた避難訓練等を実施している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、 代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全体で考えた理念を玄関正面、各ユニット、事務所に掲示し、朝礼で唱和することで、職員のほとんどが共有できている。重点目標も掲げ、唱和している。	認知症に関する研修会参加を期に認知症利用者をより理解するように努めている。職員や家族が入りたくなるような施設を目指すことを理念に掲げ、日々実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のクリーンアップや避難訓練等に施設職員が参加したり、文化祭や福祉大会等の地域の行事に利用者様が参加できるようにしている。	職員が地域の清掃活動に積極的に参加するなど、地域とのつながりを重視している。また、毎年津波を想定した避難訓練等を地域住民と一緒に実施している。	
3		○事業所の力を活かした 地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に 伝え、地域貢献している	地域の行事に利用者と参加することで、地域の方に認知症の方の理解や支援の方法を示している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回実施しており、ご家族や利用者様、地域包括支援センターや社会福祉協議会、民生委員、自治会の方に参加していただいている。利用者数や行事、事故、ヒヤリハットなどを報告し、情報交換している。	2ヶ月毎に開催される運営推進会議においては、行事開催状況やヒヤリ・ハット等、施設の現状を報告して対応策を話し合い、今後の施設運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日々連絡をとれる体制にあり、疑問点を相談するなどしている。	地域包括支援センターや社会福祉協議会と連携し、生活保護受給者に関する相談を行ったり、施設の空き状況等を報告するなど、随時情報交換を行っている。	今後の展望として、地域内のグループホームで連携できる体制を作り、互いに情報交換をしてそれぞれの施設の資質を高めることができるような取り組みを期待する。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないことは、スタッフ全員が理解し身体拘束をしないケアを実践することができている。	利用者が施設外に出た際は職員が同行するなどして、自由を束縛しないよう、身体拘束のないケアを実践している。身体拘束を行わないケアに関して、勉強会を通して職員全員が理解している。	身体拘束の弊害や不適切ケアに関する勉強会を開催するなどして、身体拘束の不要性をより深く理解できるように取組むことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体にけがなどがいないか、日々注意してみている。不適切なケア(特に言葉づかい)についてはお互いに注意しあい、防止に努めている。勉強会でも法令遵守、虐待についても取り上げることがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業利用者は現在5名で、その都度関係者と連絡を取って活用できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を心掛けている。疑問や不安はその都度うかがい、随時対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で利用者や家族に参加していただく他、目安箱を設置している。また、普段から職員は利用者や家族の意見を聞き、ケアに反映できるように努めている。	家族が面会に訪れる際に意見や要望等を聞くように努めている。匿名で意見等を投書できる目安箱を設置しているが、投函された例はほとんどない。	利用者や家族が施設側に遠慮することなく苦情や意見を述べるができるように、第三者委員会を設置することを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で出た意見などをできるだけ反映できるように心掛けている。	毎月の会議に加え、普段の話し合いやメールにて意見を吸い上げている。また、年に2回の個人面談にて職員個々の意見を聴くように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	夜勤手当等の引き上げを行ったり、外部の研修に参加させたりする他、人事考課を定期的に行って、賞与等に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、 代表者自身 や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修を受ける機会を確保し、研修費用を事業所が負担している。また、その人の力量に合った研修を受けられるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、 代表者自身 や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	館長は随時地域包括支援センターや社会福祉協議会等と情報交換している。管理者や職員は町の介護支援専門員会議に参加したり、認知症カフェに参加して交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に本人に会って事前調査を行い、調査を行った職員が入居時にも立ち会い、不安にならないように心掛けている。入所後はコミュニケーションを多くとり、信頼関係を築けるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に家族に会って、困っていることやわからないこと、要望などをうかがい、不安がないように説明している。またケアに対しての家族の意向は必ず確認している。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の状況に応じて職員と一緒に、掃除、お盆拭き、洗濯物たたみなどを手伝っていただいている。役割をもつことでその人の生きがいがいいになっている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来やすいホームの雰囲気づくりに努めている。お便りにより、毎月近況報告をし、面会時にも報告や相談をしている。また、電話でも連絡を取り合っている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望する病院や地元の商店や美容院に行けるように配慮している。また、親戚や友達が来やすい雰囲気づくりに心掛けている。	個々の利用者の入所前の人間関係を重視しており、希望に応じて外出支援を実施している。また、知り合い等が気軽に面会に訪れることができるような柔らかな対応に心掛けている。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係の把握に努め、摩擦が起きないようにリビングでの座席位置に配慮したり、雰囲気が悪くなった時には職員が間に入ったりしている。より関係が深まるように、会話や体操、歌などを一緒に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度は終了後の支援を必要とした例がないが、必要時は相談や支援に努める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族と相談し、本人の意向や性格、生活習慣を配慮して本人の要望に応えるよう努めている。本人が意向を伝えるのが困難な場合は、普段の言動や家族等からの情報をもとに、本人本位となるように検討している。	職員が日常的に利用者に係ることで本人の意向を把握するように努めている。介護支援専門員は担当介護職員の情報を参考にしながら個々の利用者のモニタリングを実施している。	利用者の情報収集に関しては、アセスメントシートを工夫するなどして、職員の技量による差異が生じないように取り組むことを期待する。
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、 生きがい 、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人や家族、利用前の担当ケアマネージャーに聞き、把握に努めている。入居後も普段の言動から、その人の望む暮らしが把握できるよう努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、どのように過ごしているかを、ユニット日誌、ケース記録、バイタル表に記録し、情報を共有するようにしている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向をもとに、医師や看護師などと連携し、職員が意見を出し合い、現状に即した介護計画を作成している。	居室担当者からの情報を参考にして、利用者の意向を踏まえた介護計画を作成している。毎月勉強会を実施するなどしてより良い介護計画となるように取り組んでいる。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バイタル表とケース記録に記入するとともに、ユニット日誌にも記入して共有を図っている。そして実践計画への見直しに用いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	かかりつけの医療機関や、行きつけの商店や美容院などの把握に努め、利用するようにしている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や医療機関は本人や家族の希望を取り入れて対応している。	利用者の入所前のかかりつけ医を継続して、安心した治療を受けることができるように支援している。歯科受診に関しては往診歯科を利用するなどして通院による利用者の負担を軽減するように取組んでいる。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は体調の変化等を看護職員に報告・相談し、受診や看護を受けられるようにしている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	嘱託医にかかる割合が多いこともあり、入院中の状態等、相談することができる関係づくりができています。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重体化したときの事業所の取り組みや対応を説明している。また、看取りの意向確認を入居時を含め、随時行って署名していただいている。嘱託医の協力で、看取りケアが実施できている。	見取りの指針が整備されており、重篤になった場合は家族の意見を重視し、嘱託医の協力の下で看取りケアを実施できる体制が確立されている。家族が泊まることもできるように環境面においても配慮している。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一度、AEDの使用法を含む救命法の講習を受けているが、急変時の対応はまだ十分ではないので、訓練の頻度を増やすようにしていきたい。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震・津波想定避難訓練を行った。自治会にも協力を呼び掛け、地域包括支援センターや民生委員の方にも参加していただくなど、連携が取れるよう取り組んでいる。	津波を経験した地域であることから、津波の心配がない標高14mラインまで確実に避難できるように、地域住民を交えた避難訓練を実施している。一方、夜間想定避難訓練は実施しているが、実際の夜間訓練は行われていない。	夜間における訓練を行い、新たな課題に対して取組むことを期待する。また、併設の多目的交流ホールを福祉避難所として地域住民が活用できるように期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者の人格、意向を尊重し、丁寧であたたかい言葉がけに努めている。	利用者への言葉遣いに注意し、禁止・指示等の言葉を使用しないように心掛けている。また、排泄に係る問いかけは他人がいる所で行わないなど、本人のプライバシーに配慮している。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自由に意見を述べて良い雰囲気作りや、選択肢を示して、選んでいただくようにするなどして、自己決定できる場面を増やすよう心掛けている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全員で同じことをするのではなく、一人ひとりがそれぞれのペースでしたいことができるように気を配っている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類など本人の好みのもや、本人らしいものを身に付けてもらうように心掛けている。身だしなみを整えたりおしゃれをしたりした時には、肯定の言葉を伝えて、意欲が保てるよう図っている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや後片付けを一緒に行っている。職員は入居者と一緒に食事をとりながら見守りし、必要時には声をかけている。毎月1回の「夕食会」では郷土料理や季節を感じられる献立を一緒に作って食べ、好評を得ている。	毎月の誕生会と兼ねて食事会を開催し、「だまもち」等を利用者と一緒につけている。また、山菜の皮むきを行うなど、利用者が積極的に食事の準備に係っている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーや、栄養のバランスを考慮した献立になっている。食事摂取量などは記録に残して把握し、摂取量の少ない方への声かけや、飲み物等の変更を行って支援している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合った方法で口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、時間を見てトイレへ誘導したり、ポータブルトイレを使用したりしている。また、筋力運動や歩行練習を続けることで、排泄の自立を支援している。	利用者個々の排泄感覚を把握し、個別にトイレへ誘導している。また、立ち上がり訓練等を行うなど排泄の自立支援に努めており、おむつ使用者がポータブルトイレで排泄できるようになった事例もある。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を声掛け・介助したり、好みの水分を用意したり、歩行などの運動を一緒に行ったりしている。腹部のマッサージなども行い、必要時には下剤も使用している。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯の希望には答えられないこともあるが、入浴日を決めずに、体調の良い日、入りたい日に入浴していただいている。入浴したくない方には、入浴しても良いと思える声掛けに努めている。入浴を楽しめるよう入浴剤を使用している。	入浴日を特に定めなくて、利用者が希望する日に入浴できる体制を構築している。入浴を拒む利用者に対しては、入浴したくなるような声掛けに努め、入浴していただいている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調をみて、昼夜逆転しないよう気をつけながら、休みたいときに休んでもいただいている。夕食後に足湯をして、気持ちよく眠れるよう支援している。希望する人には湯たんぽや布団乾燥機を準備している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報をお薬手帳・個人ファイルに入れて職員が確認できるようにしている。利用者によってオブラートを使ったり、2～3回に分けて飲んでもらうなどして支援している。症状に変化がある場合は医師などに相談している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の趣味、生活歴、嗜好品などを把握し、歌、ハーモニカ、家事、テレビ、ビール、甘い飲み物、お茶、散歩等、楽しめるよう、役割を頼んだり、飲食物を出したり、声掛けしたりして支援している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	商店など、出かけられるよう努めている。通院の際に買い物に寄るなどもしている。春～秋の間、毎月ドライブを行って外出した。また、すし屋に行きたいという方を、計画的に外出させることができた。	利用者本人の希望に応じて柔軟な外出支援に取り組んでいる。あまり外出しようしない利用者に対しては、施設の買い物の際に誘うなどして、他の利用者と差異が生じないように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時など、使用する時にお渡しして、使えるように支援している。また、数名の方が普段からお金を所持して、外出時や施設内の自動販売機で自由に使われている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から電話したいという要望がある時にはそれに応じ、ダイヤルを介助している。また、手紙を出してきてほしいという時にも要望に応じている。電話をかけるようお勧めすることもある。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日清掃して清潔に努めている。季節に合わせた飾りや利用者の作品などを室内に飾っている。窓から海や山などの景色が見えるようにしている。喚起や消臭剤などで臭いにも気をつけている。	施設内は清潔に保たれ、随所に空気清浄器を設置している。窓から海を眺めることができるなど居心地の良い共用空間となっている。利用者と一緒に季節を感じることもできる創作活動に取り組んでおり、作品を施設内に飾っている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは気の合った利用者どうしが交流できるようイスやソファの配置などに配慮している。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具などを持ち込んでいただけるようにしている。配置などは本人の希望や動線・転倒防止に配慮している。	施設ではベッドと衣装ケースを用意して便宜を図っている。利用者が長年使い慣れた日用品や家具などを持ち込んでいただき、自宅と変わらない雰囲気を作り出すように配慮している。	
53	D113	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを設置したり、利用者に合わせた歩行器や車いすを使用することで、できるだけ自分の力で生活できるようにしている。迷わないようにトイレの表示や居室の表札をつけている。		